

序

平成20年度における当センターの事業計画については、関係各位の御指導・御協力をいただきながら、円滑に計画した事業を実施することができました。

はじめに、調査事業においては、7遺跡の発掘調査と報告書作成のための28遺跡の整理作業を実施いたしました。発掘調査の内訳は、県農林事業に係る調査が2件、県土木事業に係る調査が3件、国土交通省事業に係る調査が2件となっており、その外12遺跡の発掘調査報告書を刊行いたしました。近年における発掘調査の傾向は、他県と同様に県公共事業の減少は引き続き見られるものの、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業が主体となっており、今後予想される高速道路の整備状況や県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。また私どもの重要な施策である埋蔵文化財保護の重要性の周知や古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するとともに、引き続き県民の皆さんの目線に留意しながら、責任ある発掘調査を基礎とした調査研究を推進してまいります。

次に、研究・普及事業につきましては、センターホームページでの情報発信や現地における発掘調査説明会の開催、広報誌「埋文やまがた」の刊行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さんにお知らせしてまいりました。

特に今年度は、うきたむ風土記の丘考古資料館・県立博物館・東北芸術工科大学との共同展示や、山形空港ビル、庄内空港ビルでの「外部展示」を行い、県民の皆さんに出土品を公開し、当センターの事業への理解や文化財保護の重要性について広く普及を図ったところです。

また、例年山形市を会場に行っております「山形県埋蔵文化財発掘調査報告会」を『山形県埋蔵文化財センター参観デー』と衣替えし、上山市の当センターで2日間にわたって開催し、今年度発掘した調査成果の発表や、センターの業務内容の紹介、土器作り、整理作業などの体験を実施いたしました。さらに、学校現場からの依頼を受けた「出前授業」は45校で実施したほか、職員を派遣しての講演や調査研究発表等を実施してまいりました。今後も次世代を担う子供達を中心に、地域の伝統文化の大切さや、誇りと自信の持てる地域づくりの一環としての事業の展開など、さまざまな機会を活用して、研究・普及活動を行っていく計画です。

さらに、外部監査を通して当センターの事業運営の各分野にわたって指摘を受けた点については、改革プロジェクトチームを中心に、「コスト意識の徹底」「効率的な事務処理体制の確保」「情報の共有化」「PDCAサイクルの実践」「収益的な事業を確保するための検討」の5つの柱をもとに改善すべきところは早急に改め、県民の方々から信頼される埋蔵文化財センターとして確立してまいります。今後とも、センター運営の基本原則である、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えていくため、職員一同、一層の研鑽を重ねていく所存であります。

平成21年3月31日

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 山口 常 夫

目 次

I. 管理運営概要

1. 沿 革	1
2. 組 織	
(1) 役員及び評議員	1
(2) 職制及び人員	2
(3) 組 織	2
(4) 職 員	3
3. 施 設	4

II. 事業概要

1. 調査業務	5
(1) 調査遺跡一覧	6
(2) 調査遺跡の概要	
上の寺遺跡（第2次）.....	8
下大曾根遺跡	12
滝ノ沢山遺跡	16
高瀬山遺跡(HO)（第3次）.....	18
山形城三の丸跡（第4次）.....	20
山形城三の丸跡（第5次）.....	24
川前2遺跡（第4次）.....	28
2. 普及啓発業務	
(1) 研 修 等	
①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣	30
②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣.....	30
(2) 情報処理	
①収蔵図書データベース.....	30
(3) 普及啓発	
①ホームページ	31
②山形県埋蔵文化財センター参観デー(やまがた埋文祭り2008).....	31
③外部展示	32
④学校への協力	33
⑤来所者	35
⑥職員派遣等	36
⑦調査説明会	36
⑧資料貸出	37
⑨資料掲載許可	37
⑩出版物	38
(4) 調査研究	
①同范スタンプ文を有する瓦質土器の一事例 高桑 登	39
～上の寺遺跡・小田島城跡出土資料から～	
②最上地方出土の瓦質土器について 山木 巧.....	43
～下大曾根遺跡と上野遺跡出土資料の比較～	

